

第104回本郷ふじやま公園古民家歴史部会・歴史探訪

「横浜市南部地域・栄区その7」

ふじやま公園古民家歴史部会員

長谷川 一郎

平成28年2月3日(水) 「大船駅西口(観音口)～御霊神社ほか」

*集合：大船駅西口(観音口) 9時50分厳守同時出発(バス移動：地図参照)

(1)行程：下記「探訪場所」に同じ。

(2)食事場所：自由行動

(3)探訪先：栄区役所「栄の見どころ」、「栄区歴史散策マップ」などを参考にした。

①八幡神社：金井村の鎮守で、社殿には透かし彫りの高砂の松がある。

②玉泉寺：臨済宗の寺で、建武2年(1335)の創建。鎌倉円覚寺を復興した誠拙和尚のゆかりの寺。誠拙は文化10年(1813)、京都天竜寺の住職としてこの地を去ったが、その際、歯と爪をツボに残した「爪牙塔」や、風炉などが、市指定文化財として今も残っている。

③御岳山三社大神：玉泉寺の裏山は、木曾の御嶽山になぞらえて作られたといわれ、江戸末期から明治にかけての多数の山岳信仰塔がある。三社大神(三笠山刀利天、御岳山座王大権現、八海山堤頭羅神王)は嘉永7年に建てられ、安政3年の台風で破損し、同4年に再建されたもの。

④御霊社(田谷御霊社)：田谷の鎮守で、祭神は村岡の御霊社から分霊した鎌倉権五郎影正といわれている。社殿の中宮は天保5年(1834)に再建された総檜材で、精緻を極める。元住友電工敷地内にあった亀甲山の神明社と、元山王山の日吉大権現が合祀された。

⑤定泉寺(田谷の洞窟)：田谷の洞窟は、農家の人が水源として横穴を掘ったのがはじめという(詳細地図参照)。洞窟を管理するのが定泉寺、「真言宗田谷亀見山定泉寺」と称し、天文15年(1532)の創建という。

⑥御霊神社(長尾台御霊神社)：鎌倉時代、金井、田谷、長尾台周辺は、後三年の役で活躍した武将鎌倉権五郎影正の子孫にあたる梶原氏が治めていた。梶原氏は支配地域が拡大したので田谷長尾台を含めた13の場所に分け、現在は再建されたものになっている。

以上

歴史探訪
横浜市南部地域・栄区その7

第104回 2月3日(水)

大船駅(バス) → 金井バス停
→ 玉泉寺 → 田谷の洞窟 → 御霊神社
→ 大船駅



③ 御岳山三社大神

『ここは横浜のチベットだよ！』
(農作業していた人の話)

② 玉泉寺

① 八幡神社

⑤ 定泉寺

④ 御霊社

⑥ 御霊神社

権五郎神社の創建年代は詳らかではないが、御霊信仰思想の広がりや鎌倉氏による地方開発の展開を考慮すると、平安時代後期であると推定することができる。
もとは関東平氏五家の始祖、すなわち鎌倉氏・梶原氏・村岡氏・長尾氏・大庭氏の5氏の霊を祀った神社であったとされ、五霊から転じて御霊神社と通称されるようになった。御霊神社、御霊社、五霊神社の名称の神社は鎌倉を中心に、栄区、戸塚区、泉区に多数存在する。



洞窟は定泉寺本堂の裏手にある小さな舌状台地の地下にあり、上中下の三段構造で途中道がいくつも枝分かれしている。内部には行者道という順路が定められており、これから外れた道には入ることができないようになっているため道に迷うことはない。一部封鎖されている場所があるのは、ただ単に道が崩れていて危険であるという理由と宗教的な理由とがある。行者道に沿って電灯が設置されており、行者道に関しては足元もきちんと整備されている。
洞窟は10個前後の広い空間を通路で結ぶような形で作られているが、この広い空間や通路の壁面や天井には曼荼羅、十八羅漢、刈萱道心の仏教説話などが彫られている。また西国三十三所、坂東三十三箇所、秩父三十四箇所、四国八十八箇所の壁画は、それらをすべて回することで巡礼したことの代替とするものである。さらに、足柄山の金太郎を描いたものなど庶民的ともいえる彫り物もある。洞内には音無川などいくつもの水が流れており、やわらかい地層の中にこれらの彫り物が保たれているのはこの湿気のためである。洞内には仏像などが安置されている。瑜伽洞は現在でも住僧や一般からの希望者による修行の場であり、厳粛な宗教空間となっている。

大船駅西口 バス4番乗り場 から「戸塚バスセンター行」 に乗車「金井」で下車
時刻表 9:50 10:05 10:23

dimson